情報数学 III 期末試験 解答

$$\bar{x}^2 + \bar{x}\bar{y} + \bar{y}^2 = 1 \tag{1}$$

となる (1次の項が消える). (4点)

方程式(1)は行列を用いて

と書ける.2 次の項の係数行列を $A=\begin{pmatrix}1&\frac{1}{2}\\\frac{1}{2}&1\end{pmatrix}$ とおくと,A の固有多項式は $f_A(t)=t^2-2t+\frac{3}{4}=\frac{1}{4}(2t-1)(2t-3)$ であるから,A の固有値は $\frac{1}{2}$ と $\frac{3}{2}$ (2 点),固有ベクトルはそれぞれ $c\begin{pmatrix}1\\-1\end{pmatrix}$, $c\begin{pmatrix}1\\1\end{pmatrix}$ である(各 2 点).ただし,c は任意の実数とする. ノルムが 1 の固有ベクトルを並べて行列を $P=\begin{pmatrix}\frac{1}{\sqrt{2}}&\frac{1}{\sqrt{2}}\\-\frac{1}{\sqrt{2}}&\frac{1}{\sqrt{2}}\end{pmatrix}$ をつくり, $\begin{pmatrix}\bar{x}\\\bar{y}\end{pmatrix}=P\begin{pmatrix}\tilde{x}\\\bar{y}\end{pmatrix}$ と座標変換すると方程式(2)は

$$\left(\begin{array}{cc} \tilde{x} & \tilde{y} \end{array} \right) \left(\begin{array}{cc} \frac{1}{2} & 0 \\ 0 & \frac{3}{2} \end{array} \right) \left(\begin{array}{cc} \tilde{x} \\ \tilde{y} \end{array} \right) = 1 \quad \text{すなわち} \quad \frac{1}{2} \tilde{x}^2 + \frac{3}{2} \tilde{y}^2 = 1$$
 (3)

となる (2点). これは 楕円 である. (4点)

なお、 $\det(A)$ を計算し (2 点)、さらに $\lceil \det(A) \neq 0$ であるから、この 2 次曲線は有心 2 次曲線である」ことを述べていれば 5 点加点する.

 $oxed{2}$ 視点の同次座標を (8:-1:-1:1) とすると,yz-平面 (x=0) への透視投影 Φ_V は行列

$$\left(\begin{array}{cccc}
0 & 0 & 0 & 0 \\
1 & 8 & 0 & 0 \\
1 & 0 & 8 & 0 \\
-1 & 0 & 0 & 8
\end{array}\right)$$

の積として表すことができる(5 点)。投影する 4 点の同時座標を A(-1;-2:-3:1), B(-2:-1:2:1), C(-3:3:-2:1), D(-10:-1:0:2) とすると,4 点の Φ_V による像の同次座標は

$$\begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 8 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 8 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 8 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} -1 \\ -2 \\ -3 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ -17 \\ -25 \\ 9 \end{bmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 8 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 8 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 8 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} -2 \\ -1 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ -10 \\ 14 \\ 10 \end{bmatrix},$$

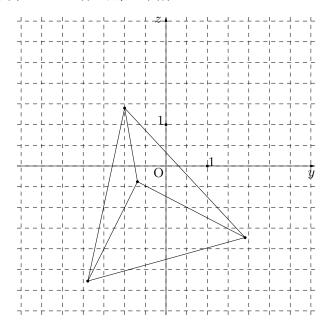
情報数学 III 期末試験 解答

$$\begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 8 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 8 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 8 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} -3 \\ 3 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 21 \\ -19 \\ 11 \end{bmatrix}, \quad \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 8 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 8 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 8 \end{pmatrix} \begin{bmatrix} -10 \\ -1 \\ 0 \\ 2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ -18 \\ -10 \\ 26 \end{bmatrix}$$

となる (各 1 点). したがって、 Φ_V による像の直交座標は

$$\Phi_V(A) = \begin{pmatrix} 0 \\ -\frac{17}{9} \\ -\frac{25}{9} \end{pmatrix}, \quad \Phi_V(B) = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ \frac{7}{5} \end{pmatrix}, \quad \Phi_V(C) = \begin{pmatrix} 0 \\ \frac{21}{11} \\ -\frac{19}{11} \end{pmatrix}, \quad \Phi_V(D) = \begin{pmatrix} 0 \\ -\frac{9}{13} \\ -\frac{5}{13} \end{pmatrix}$$

となる(各 1 点)。 4 点 ABCD を頂点とする四面体の像のワイヤーフレームは以下のようになる (点を正しくプロット出来ていれば各 1 点,四面体のワイヤーフレームになっていれば更に 3 点)。



$\boxed{\bf 3}$ (問題の条件を満たす M と $\vec u$ の選び方は一意的ではない)

平面 x-2y-z=1 の法線ベクトルを $\vec{n}=(1,-2,-1)$ とおくと,M の第 1 列 \vec{m}_1 は \vec{n} に平行な単位ベクトルであるから,たとえば, $\vec{m}_1=\frac{1}{\sqrt{6}}(1,-2,-1)$ とできる(5 点)。M の第 2 列 \vec{m}_2 は \vec{m}_1 に直行する単位ベクトルであるから,たとえば $\vec{m}_2=\frac{1}{\sqrt{2}}(1,0,1)$ ととる(5 点)。M の第 3 列 \vec{m}_3 は \vec{m}_1 と \vec{m}_2 の両方に直交する単位ベクトルなので,たとえば $\vec{m}_3=\vec{m}_1\times\vec{m}_2=\frac{1}{\sqrt{3}}(-1,-1,1)$ とすればよい(5 点)。したがって,

$$M = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{2}} & -\frac{1}{\sqrt{3}} \\ -\frac{2}{\sqrt{6}} & 0 & -\frac{1}{\sqrt{3}} \\ -\frac{1}{\sqrt{6}} & \frac{1}{\sqrt{2}} & \frac{1}{\sqrt{3}} \end{pmatrix}.$$

ベクトル \vec{u} は, $\vec{u} \cdot \vec{n} = 1$ を満たせばいいので,例えば,(1,0,0),(0,0,-1),(2,0,1),... など (5 点).